

令和3年度静岡県立看護専門学校自己評価表

1 評価概要

○ 対象期間

令和3年度（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

○ 評価方法

- ・ 9大項目、53小項目、4段階評価で職員アンケート調査を実施（実施時期：令和4年3月、評価者：本校職員23人）
- ・ 令和3年度の取組み状況、上記職員アンケート結果等を元に学校自己評価を、学校運営会議で実施
- ・ 学校自己評価に対し、学校関係者評価委員による評価を実施（7/26（火）16時～）

2 評価結果

評価大項目	令和3年度の取組み	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、県民の医療の担い手として活躍できる質の高い看護師及び助産師を育成する責務のもと、主体的に学習する人のための環境整備、生命の尊厳と人間を尊重し、高い倫理観や豊かな感性を持って看護、助産を実践する人を育てることを教育理念に掲げ、そうした人づくりの上に、専門的知識、技術、態度及び幅広い見識を持つ心豊かな専門職業人を育成することを教育目的としている。 ・これらを踏まえ、令和3年度の看護1学科及び助産学科のカリキュラム改正において、教育目標を改めるとともに、学生自身が将来の目標をイメージしやすくなるよう卒業生像も示すこととした。 ・カリキュラム改正に向けて教員間で議論を重ねることで、教育理念、教育目的に対する理解を更に深めることができた。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.8点であり、概ね適切との評価であった。 ・各評価項目で概ね適切な評価だったが、「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」の評価については、約5割が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校創立以来、掲げた教育理念の下、看護教育に取り組んでおり、令和3年度の看護1学科及び助産学科のカリキュラム改正では、この教育理念や改正の趣旨を踏まえ、教育目標を改めるなど、適切に対応することができた。 ・教育理念、教育目的の学生及び保護者への周知については、教員が理解を深めたことで、日々教育を実践する中で、学生、保護者の理解が深まるよう取り組むことができた。今後も、周知には工夫して取り組んでいく。（例：学生の名札の裏面に理念等を記載、入学前オリエンテーションの通知に文書を同封など） ・令和4年度においては、看護1学科及び助産学科は、新カリキュラムの新たな教育目標の下、看護師、助産師の育成に取り組んでいく。 ・看護2学科では、令和4年度にカリキュラム改正を予定しており、社会情勢の変化やニーズを踏まえた教育目標の見直しを行うこととしている。 	
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念、教育目的の下、計画的な事業執行に努め、運営会議等での迅速な意思決定により効率的な学校運営を行った。 ・ICT化を推進するため、教員をICTに関する研修会に参加させるなど、ICT活用に向けた準備を進めた。 	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.6点であり、平均的な評価となった。 ・各評価項目で概ね適切な評価だったが、「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」については、6割程度が“やや不適切”または“不適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営については、教育理念、教育目的に基づき、計画的、効率的な運営を行い、概ね適切に対応することができた。 ・情報システム化等による業務の効率化については、新たなツールの導入や機器の更新など情報システムの活用に取り組んでおり、具体的には、infoClipper及びANPICの導入により、成績・出席管理、情報発信等の事務処理の簡素化を図った。また、カリキュラム改正の中で、教育目標に、看護実践におけるICTの活用を位置付けることとした。 ・今後は、学びにおけるICTの活用、情報システム化に重点を置き、情報分野に精通した教員を中心としたICT化推進チームを設置するなど、情報システムの更なる活用による効果的な教育の実施を図っていく。（例：既存システムの効率的な活用、電子教科書の導入等の検討） 	

評価大項目	令和3年度の取組み	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において感染症対策を講じ、講師・実習施設との調整を図りながら、教育課程に基づいた授業を実施するなど、質の高い看護師、助産師の育成を目標に教育を実践した。 ・臨地実習では、受け入れがでない施設については、他施設で受け入れられるよう調整を行い、調整ができない場合は、教員が症例患者を演じるなど現場に即した病床環境を学内で整えることで、学びの質を確保した。 ・新カリキュラムの作成に当たっては、改正の趣旨や教育の考え方、外部講師や実習施設から聴取した意見を踏まえ、実践を支える臨床判断やICT対応に関する基礎的能力を養うための新たな授業科目の設置や授業内容の変更を行った。 	2.7	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.7点であり、概ね適切との評価であった。 ・「病院等との連携において優れた教員（本務、兼務、外部講師等含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」、「職員の能力開発のための研修等が行われているか」については、「やや不適切」または「不適切」と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科において、教育の到達レベルや学習時間を明確にし、実践的な教育を目指して取り組んだ。 ・コロナ禍における実習では、臨地での実習が困難な場合、学内で実施することとしたが、学びの質を低下させることがないよう工夫するなど、教育活動においては、適切に対応することができた。 ・病院等との連携による教員の確保については、病院の事情により、講師派遣が難しいと言われるケースもあったが、施設、講師からの紹介や県関係機関との調整により、新カリキュラムの教育内容に適した講師を確保することができた。 ・今後は、外部講師や実習施設の看護管理者等と、現場で求められる能力や現任教育の現状等を意見交換、実施、評価し、教育内容に反映させていく。また、コロナ禍における臨地実習の実施については、引続き調整を図り、教育の場を確保していく。 ・職員の研修については、コロナ禍により研修の中止やWeb開催など、受講の機会は制限されたが、研修参加を希望する職員には、希望する研修を受講できるよう配慮し、受講の機会を確保した。 	
(4) 学習成果	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師、助産師を目指す人材が社会に出て活躍するために必要な国家資格の取得については、低学年から国家試験を意識した学力強化を行うほか、最高学年では、模試での成績不良者に対して不得意分野の対策を強化するなど、全員合格を目指して取り組んだ。 ・令和3年度の国家試験では、全3学科で全員合格、合格率100%を達成した。 ・保健師・助産師課程への進学者がおり、卒業後のキャリア形成の基礎を築くことができた。 ・助産学科では、学校説明会に卒業生が参加し、在校生との交流が図られた。 	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.6点であり、平均的な評価となった。 ・「退学率の低減が図られているか」、「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか」については、6割程度が「やや不適切」または「不適切」と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国家資格の取得では、令和3年度に実施した国家試験に全員が合格し、全3学科で国家試験合格100%を達成することができた。また卒業生は、希望どおりの就職、進学ができており、学校の役割である地域で活躍する人材養成において、成果を上げることができた。 ・退学者については、令和3年度は前年度に比べ減少した。退学者を減らす取組として、入学前には、看護師、助産師を養成する本校を理解してもらいミスマッチがないよう、高校生を対象とした進路相談会や学校説明会で丁寧な説明に努めるとともに、入学後は、人間関係や学習への悩みについて相談できるよう、また適性の指導の機会として、カウンセラーによる相談体制を整えた。 ・卒業生の社会的活躍の把握や卒業後のキャリア形成効果の把握については、臨地実習病院に就職した卒業生に、病院との連絡調整会議や実習の機会を通じて把握に努めたほか、認定看護師等の取得者や地域在宅看護等に就いている卒業生に関しては、本校の講師をお願いするなど、学生が、卒業生の活躍を通して、目指すべき看護師像を描く機会となった。 	
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高校からの進路説明の要請を受けて出前説明会を開催するほか、高校生が参加する合同説明会に参加するなど、高校生に看護師という職業を知ってもらう機会を提供することができた。 ・学生の経済的負担を軽減する高等教育修学支援新制度や専門実践教育訓練給付金制度の対象校となっており、希望する学生が支援を受けられる体制を維持することができた。 ・卒業後の支援として、卒業生からの相談に個別に対応した。 	2.6	<ul style="list-style-type: none"> ・評価平均は2.6点であり、平均的な評価となった。 ・「卒業生への支援体制はあるか」、「高校等との連携による職業教育の取組が行われているか」については、6割程度が「やや不適切」または「不適切」と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が積極的に高校に出向き、学生や保護者に本校に関する情報を提供するとともに、学生等から看護学校に対する関心事やニーズなどの情報収集に努めた。こうした高校、関係機関等と連携した取組みを引き続き実施していく。 ・学生相談については、充実した学生生活が送れるように、人間関係や学習への悩み等の相談体制を整えており、令和3年度からは、カウンセラーを1名から2名(男性、女性各1人)に、相談日も月2回から4回に増やすなど、支援体制を充実させた。 ・学生への支援では、経済的支援として、授業料減免制度や各種奨学金制度を幅広く活用できるように対応するとともに、健康管理医による健康診断や感染症に対する指導・助言を実施した。 ・卒業生への支援体制については、卒業生から相談があった場合は、個別に対応するなど、取組を継続していく。また、助産学科では学校説明会に卒業生に出席してもらい、在校生と共に交流する機会を設け、お互いの情報交換、モチベーションの向上に役立てることができた。 	

評価大項目	令和3年度の取組み	職員アンケート		学校自己評価	学校関係者評価
		R3 評点	分析	評価・今後の取組（課題・改善策等）	
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> 学校として新型コロナウイルス感染症対策を定め、全職員、全学生が感染拡大防止に取り組んだ。 具体的には、毎日の体調チェック、消毒、うがい、マスク着用など日常の健康管理のほか、県をまたぐ移動の制限や原則アルバイト禁止といった行動制限についても、国の発表する評価レベルに基づき実施した。 コロナ禍で対面での授業の実施が難しい場合には、遠隔での授業を取り入れるなど、学びの確保に努めた。 	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は2.8点であり、概ね適切との評価であった。 各評価項目で、約6割から8割が“やや適切”または“適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育環境を整えることについては、コロナ禍であったが、学校として定めた新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、感染拡大防止に取り組むなど適切に対応することができた。 感染症対策として具体的に定めた事項に対して徹底して取り組んだ。結果として、学生に陽性者は出たものの、校内での感染拡大はなく、実習施設への影響も防ぐことができた。今後も、日々の取組を継続し、感染拡大防止に努めていく。 校内の施設、設備については、耐用年数の到来や故障等のタイミングで順次更新や適時の補修を実施しており、引き続き学ぶ環境の確保と安心、安全な教育のための施設整備を図っていく。 防災訓練については、実動訓練などコロナ禍で一部実施を控えたものもあったが、令和4年度は、感染状況を見ながら必要な訓練を行い、学生への防災意識への喚起に努めていく。 	
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためWeb方式で開催し、コロナ禍においても、学校のPRの機会を確保した。 学生募集に当たっては、県内全ての高校に募集要項を送付し、さらに、応募の少ない看護2学科の志願者増加に向けた取組として、准看護師が就業している病院等への募集要項の送付による周知や、県看護協会主催の准看護師を対象とした研修の場での学校紹介など、機会を捉えて効果的な募集活動を行った。 	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は3.1点であり、概ね適切との評価であった。 各評価項目で、7割程度が“やや適切”または“適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 志願者の増加に向けて学生募集活動を行っており、本校のホームページや、県公式LINE、Twitter等の各種広報媒体を活用した効果的な広報を実施したほか、学校説明会や高校生を対象とした進路相談会等の機会を通じて積極的にPRを行うなど、概ね適切に対応することができた。 令和4年度の学生募集活動において、令和3年度に実施した国家試験で合格率が100%となった成果をPRすることで、効果的な広報の展開を図っていく。 	
(8) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> 法令等の遵守については、特に個人情報の取扱いに慎重を期し、漏洩や不正使用のないよう厳格な管理を行った。 学校関係者評価において、外部からの意見を取り入れるため、令和2年度に学校関係者評価委員会を設置し、2回目となる委員会を開催して、学科運営の改善に向けた意見をいただいた。 	3.0	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は3.0点であり、概ね適切との評価であった。 各評価項目で、約6割から9割が“やや適切”または“適切”と評価している。 	<ul style="list-style-type: none"> 法令等を遵守した学校運営に努めた。その取組について自己評価を行い、学校関係者評価委員会において、委員からいただいた意見を踏まえ、必要な改善に向けて取り組むなど、適切に対応することができた。 引き続き、学校運営に関する諸課題の解決に向けて取り組むなど、適正な学校運営に努めていく。 	
(9) 社会貢献、地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献として、災害時に本校の施設を活用できるよう、本校が立地する清水町と福祉避難所としての活用に関する協定を締結した。 助産学科の学生が地域に出向き健康教育を実施したほか、県消防学校への講師派遣、新型コロナウイルス感染症対策への協力・支援として、富士地区薬剤師会主催のワクチン接種講習会、大規模ワクチン接種会場への協力を行った。 県看護協会が実施する事業への協力として、准看護師進学支援研修会、静岡県専任教員養成講習会等、東部地区支部事業に教員を講師として派遣した。 	2.0	<ul style="list-style-type: none"> 評価平均は2.0点であり、“やや不適切”から“不適切”の評価が多い。 特に、「地域に対する公開講座等の積極実施」については、“やや不適切”または“不適切”が約8割となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護師、助産師を養成する専門学校が地域においてできる各種の取組を、関係機関と協働して進めることができた。 今後、公開講座の開催や学生のボランティア活動の推奨について、新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながら、実施の可否を検討していく。 	